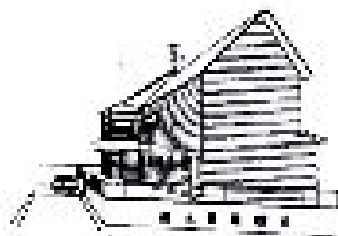


<今朝の聖書から> “高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである(46節)”ということについて見てみましょう。個人に関することとすると、第一に、意識してかあるいは偶然にか“天国”を見出した者の、個人的な(他の人に勝る)富だと解釈されかねない、ということになります。第二に、大きさにおいて(人に勝った)犠牲と貧しさを勧めているということになってしまいます。マタイは、この福音書を最初から最後まで教会の為に記録しているのです。教会は貧しかったでしょうか、教会は私達の解釈がどうあれ、豊かなものでした。“彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった。地所や家屋を持っている人たちは、それを売り、売った物の代金をもってきて、使徒たちの足もとに置いた。そしてそれぞれの必要に応じて、だれにでも分け与えられた。(使徒4:34-35)”とある通りです。次に“器の中と外(48節)”については、“教会の”と受け取っても問題ないでしょう。ここでマタイは“神の国=罪の赦し”をイエスさまの言葉を用いて説明しています。“いま働かれ啓示される神の国が分かりますか?”と質問しておられるのです。教会は“わかりました(51節)”と毎週、告白しているのです。御国は閉ざされてはいないのです。“開かれた窓”に、今は喩えられるでしょう。私達は“見えます”と答えているのです。“神の国”をもう一度確認しましょう。教会の示すものは、この世の愉快さではありません。“満足させてくれるほどには、愉快なものではなかった”とあって、沢山の人が教会を去りました。神の国は、“やがてこの世を去った時に入れてもらうところ”と思って楽しさを遠くに追いやっている時もあります。また“私は他の人より豊かな信仰者”だと言って、教会の中で、“手製の真珠”を大切にしていることもあります。神の国に気付き、向かい合った時の、人々の行いの徹底していることを、マタイは教会に、“学んだ学者・一家の主人(52節)”として語っているのです。9:2に“あなたの罪はゆるされたのだ(中風の癒しの所)”とあります。神の国とは罪の赦されたところに始まり実現される、全ての現実の“救いへの生涯”をいいます。信仰による救いは、言い換えるところになります。全ての財産を投じて、手にすることのできないのが神の国であり、ここで描かれている金持ちがそうであったように、“神の国の価値と、最後の審判の出来事を知るだけの信仰が与えられ、救いを渴望する人々が、手に入れることのできるものなのです”。

# 週報

2009年 9月 6日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)